

自由民主党多賀城市議団を代表しまして議案第 23 号から第 28 号まで令和 7 年度各会計予算に賛成の立場から、討論いたします。

本市にとって特別な年である、多賀城創建 1300 年目に当たる 2024 年度が間もなく終わりを迎え、その 2024 年を契機に本市は、将来に向かってさらなる発展・前進を目指すため、令和 7 年度は、とても大切な年になるなと認識をしております。

今議会の冒頭の施政方針では“1301 年目の文化観光面における姿”“国の施策と連動した地方の活力を取り戻す取組”、“健全かつ持続可能な行財政経営”、“縮充”が掲げられております。

それらの方針の基で、新年度予算では重点事業に各分野の政策がバランス良く 45 事業が挙げられ市の発展や市民生活の向上に必要な予算の配分が的確に行われている一方で、新たな政策には財源確保を義務付けるパイアズユーゴー原則が徹底されており、その予算編成内容に対しては、大いに評価するものであります。

また、約 600 ある事務事業においても、事業の大小や予算額に関係なく、一つひとつの事業が評価・検証の基で手法が点検され、スクラップビルドを基本として、常に現代の課題に即した見直しが行われていること。そして、一つひとつの事業が丁寧な積算の基で予算計上されていることも確認させていただきました。

さて、令和 7 年度一般会計当初予算は、前年比 34 億 8000 万円増の 304 億 5 千万円の過去最大の予算規模となりました。市庁舎耐震対策事業における西庁舎の改修事業費や中央公園魅力創造事業における財産購入費をはじめとした普通建設事業費の増加のほか、昨今の社会保障経費の増加に伴う民生費や給与改定に伴う人件費の増加がその要因として挙げられております。

そのような中であっても、国の交付金を最大限活用し、物価高騰に疲弊する市民や事業者へ向けた経済対策事業の実施のほか、市民文化創造推進事業、観光まちづくり推進事業、スポーツウェルネス施設整備事業など、持続可能で、本市のさらなる発展・前進のための事業費が盛り込まれていること。また、こども計画等策定事業、小中学校環境整備事業、ゼロカーボンシティ推進事業など、将来にわたって市民の快適な生活環境を堅持するための事業費が多分に盛り込まれていることを確認致しました。

本議会審議において、深谷市長は、本予算を「謙虚予算」と表現されておりましたが、私から見た場合には、非常に充実した予算内容となっており、昨今、あらゆる物価や賃金が上昇し続け、予算規模や事業費が拡大する中であっても、財政調整基金の繰入額を前年度の金額を下回るものに抑える一方で、こうした予算を計上いただいた深谷市長をはじめ、市執行部の皆様に敬意を表します。

歳入につきましても、歳出同様に適正に積算されており歳入の約 3 割を占める市税については、たばこ税を除いて昨年比増となっており、これまでの執行部の取組の成果であると認識しております。

国庫支出金・県支出金についても、事業に合わせて最適な補助金等を計上されているほか、その

算定根拠も適格に計上いただいております。また、市債についても 16 億 7706 万円増となっておりますが、内訳を確認しますと、本市にとって、地方財政上有利な起債が活用されており、様々な検討や調整がなされたものと御推察致します。

政策分野ごとに確認もさせていただき、安心・安全分野を皮切りに福祉・教育・生活環境・産業・地域創成・行財政経営とそれぞれの分野において、冒頭述べましたスクラップビルドを基本として現代の課題に対応する事業・将来を見据えた事業、様々な視点からそれぞれの事業が構築され、パイアズユーゴー原則の基で、財源を確保し予算計上が行われおります。

次に特別会計、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険特別会計についても、歳出予算についてきめ細かく推計がなされ、歳入予算についてもそれぞれの制度に基づき適切に計上されております。

国保会計の現行制度での運営は、本市のみならず全国的に大変に厳しい状況であります。他会計事業と連動を図り、歳出の抑制に取り組んでいただきたいと考えております。

また、介護保険特別会計におきましても、介護を必要している方々へきめ細かなサービスを提供することはもちろんのことですが、こちらも他会計事業と積極的に連動を図り、高齢者の皆様の健康寿命の延伸・生きがいの創出、なによりも高齢者の皆様が元気で地域で活躍していただけるよう各事業に取り組んでいただきたいと考えております。

次に、企業会計のうち、水道事業会計につきましては、第 2 条に定める業務の予定量ほか、第 3 条に定める収益的収支、第 4 条に定める資本的収支等について、適切な予算計上が行われていると確認させていただいております。水道事業会計につきましても、人口減少や施設の老朽化などとしっかりと向き合い、未来を見据えて盤石な経営を令和 7 年度もよろしくお願いいたします。

最後に下水道事業会計となりますが、こちらも業務の予定量ほか、収益的収支、資本的収支について、適正かつ計画的に、雨水事業並びに汚水事業のバランスを図り、予算が計上されているものと確認をさせていただいております。さらなる健全化、安定経営のために中長期的な目線で一つひとつ課題解決を図っていただきたいと考えております。

特別会計まで述べさせていただいたところですが、改めて各会計当初予算編成に関わった全ての職員の皆様に敬意を表します。

結びとなりますが、1301 年目、新たな多賀城の始まりです。人口減少や少子高齢化を抜本的に解決することは現実的ではなく、それらの問題を起因とする様々な課題、一つひとつと向き合い、物価高騰など見通しが立たない課題も山積しておりますが、令和 7 年度もこれまで同様に常に未来を見据えてベターではなくベストを選択し、より良い多賀城をともに作り上げてまいりましょう。

以上、賛成討論とさせていただきます。